

医心 伝心

学術団体としての 第71回富山県医学会

県医師会常任理事 南里 泰弘

平成28年度の富山県医学会は、平成29年1月29日(日)に開催される。馬瀬会長の思いにより、これまで低迷していた富山県医学会を一新し、富山県の多くの医師が顔の見える関係を築き、病病連携、病診連携がよりよきものになるよう企画され今年で3年目となる。以前の富山県医学会は研究助成金を受けた先生の発表と特別講演で参加者が非常に少ないことが問題であった。当時、馬瀬会長や泉副会長は他県での医学会に参加し、取り組みを視察された。そこには県独自で企画された内容で、学術・研究的要素と医師同士の同窓会的要素も加わり多くの医師が参加し親交を深めている現状が見られた。富山県医師会もそれに倣い学会形式での口演、発表形式とし医師だけでなくすべての医療従事者の研究成果の発表の場とすることとした。また、若手の医師、医学生も発表していただき参加することで、我々の医師会活動についても理解し入会していただくことになればとの思いもそこには含まれていた。口演は当初病診・病病連携、各病院の取り組み、特徴などをテーマとし公的病院を中心に発表をお願いした。一般演題はポスター形式としすべての医療従事者からの応募を受け付けることとした。また、ポスター部門にはアワードを設け参加する意欲を掻き立てた。

第69回富山県医学会は学会形式となった初めてのことであり、演題募集はしたものどれだけ集まるか不安であったし、参加者の数も読めない不

安だらけのスタートであったが、結果は上々であり参加者も179名とこれまでの医学会を一変させた。昨年度の第70回では口演数22題、ポスター数44題と2会場同時進行となる盛況で、参加者は256名と大きな伸びであった。3年目となる第71回医学会では、口演テーマを新たなものとし、『地域包括ケア～在宅医療を含めて』、『高齢化社会と医療』とした。また期日を他学会・研究会と重なりがないよう1月下旬で調整した。またこれまではメーカー協賛にてランチョンセミナーを企画・提供していたが、新専門医制度により感染防御、医療安全、医療倫理の3項目が全科必須の共通単位となったこと、メーカー協賛ではこの3項目は取得できないことから、ランチョンセミナーにおいてもメーカーを除外し、県医師会独自の講演会として再生富山県医学会として開催予定である。今回ランチョンセミナーとしての特別講演は医療倫理をテーマに東京大学大学院、特任教授清水哲郎先生に『意思決定支援の臨床倫理－エンドオブライフケアをめぐる－』と題して講演していただく。口演数17題、ポスター数55題と前年を上回る演題数が集まりました。これも多くの先生方のおかげと感謝いたしております。

今年度も例年以上に実りのある医学会として、医師だけでなく医学生を含めて医療従事者すべてが集う学会にできればと願っております。皆さんの参加をお待ちいたしております。